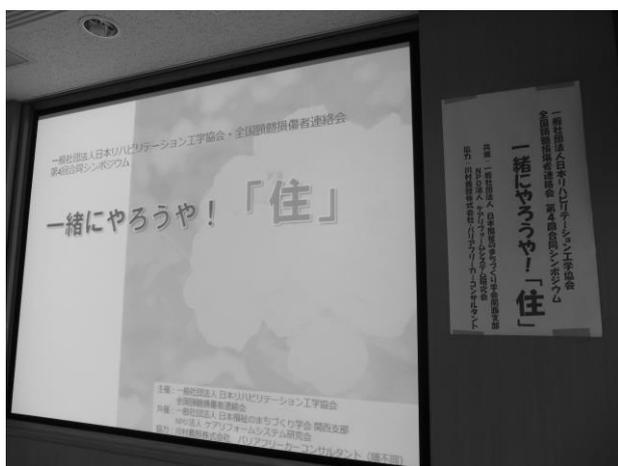


## 第4回合同シンポジウム～司会～

山本 智章

去る、3月21日（土）に大阪府大東市にある川村義肢株式会社にて、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会と全国頸髄損傷者連絡会の第4回合同シンポジウム“一緒にやろうや！「住」”が開催されました。今回は、関西での開催ということで、大阪と兵庫頸損連も実行委員に加わり準備を行ってきました。



会場内スクリーン

まず私は、会場となる川村義肢株式会社はどこにあるのか。また、どのような交通機関を利用して行けばいいのか。全く分からなかったので川村義肢のホームページに掲載されている住所や最寄り駅を調べました。そこで目にした“JR住道駅”まさか、“じゅうどう”と読むのだろうか。そんなはずがないと思い漢字を調べました。やはり、違う読み方で“すみのどう”でした。

当日の行き方は、JR明石駅からJR尼崎駅まで行き尼崎駅で乗り換えてJR住道駅まで行きます。駅からはシャトルバスで会場まで行く予定にしていました。

いざ当日、JR住道駅までは予定通りに問題なく着いてシャトルバスが来るまで約30分の待ち時間がありました。その間に昼食にと持参していたコンビニのおにぎりを駅前で食べていました。

この日は、天候に恵まれ日向は暖かく外で食べるおにぎりが美味しいかと春を感じていました。ゆっくりしていると、目の前を川村義肢と書いて

あるバスが駅のロータリーに入っていくのが見えました。もしかして、いま見えているあのバスに乗る予定だったような。時計を確認すると嫌な予感があたりバスが来る時刻になっていました。さっきまでの暖かかった空気がいっきに寒くなり私の顔も青ざめていたのではないのでしょうか。ただ呆然と駅から出ていくバスを見ている私に、大阪頸損連のSさんからバスに乗らなくてもいいのか？と声をかけて頂き、急いでバスを追いかけました。この時が一番あせりました。お願いだから停まってくれと思いながら。

ようやく、Sさんと学生ボランティアさんが声をかけてくれたおかげでバスが停まり、私は無事バスに乗ることができました。私は、Sさん、学生ボランティアさん、バスの運転手さんに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

移動中の車内で“やれやれ”と大きく息をして会場に着く前から何をやっているんだろうと先が思いやられました。なぜなら、今日の合同シンポジウムの司会を私がすることになっていました。私の中で大役だったからです。

会場に着くと実行委員のメンバーが発表の打ち合わせをしていたり、通路をバタバタと慌ただしく動いていたり最終の準備が行われていました。私は今回の合同シンポジウムで発表される方々にご挨拶をして名前の読み間違えがないように確認をとり本番に備えていました。



最終の打ち合わせ

だんだん緊張が強くなってきましたが、言葉に詰まってもいいから言い間違えのないようにや

りきろうと心を落ち着かせました。

開始時間が近くなるにつれ参加者の数が増え、人では会場がいっぱいになり、なかには会場の外から見る人までいたぐらいでした。こんなに沢山の人が集まるなんて想像以上でびっくりしました。



会場の様子

そろそろ始めるのかな。開始時間も少し過ぎて、いるし会場には沢山の参加者も集まっているし、思い切って司会を始めていきました。マイクから聞こえる自分の声に“変な声”と思いながらも第一声を出すことで少し緊張が緩み“このままなら大丈夫”と自信ができました。途中、何度も詰まりそうになりましたが、最後まで無事に司会の進行ができてホッとしました。



満面の笑み

今回の合同シンポジウムで気になったことは住宅改修についての話でした。実際に住宅改修をされた方の話を聞いていると改修が終わり住んでみると当事者の思い描いていた生活が送られていなかったそうです。とても残念な気持ちにな

りました。今より快適な生活を送るために住宅改修をしたのに、望んでいたことが叶わなかったのでは意味がなかったんじゃないかと思ってしまう。なんの為の改修だったのだろう。

もちろん一度目で満足できるものができるかどうかは難しいことだと思います。これは、どんな家を誰が建てても難しいことだったのかもしれない。だから、もっと当事者の日常生活を支援者側が実際に見たり、何度も話し合いをしたり、当事者を知ることが大切なのかなと思います。

例えば、車椅子の大きさや車椅子で曲がるのが可能な角度、また車椅子が通れるスペースや入れるスペースの確保などです。その他にも知っておくべきことは沢山あると思います。また、当事者も住宅改修をするうえで、どのような生活を送りたいのか明確なイメージを持つことが大事だと思いました。そのイメージを支援者側に何度も伝えることで相手にも分かりやすく伝わると思いました。お互いが納得するまで話し合えば大きなミスは減り満足ができる家になるように思います。また、住宅改修をされた頸髄損傷者の自宅を見学に行き自分の目で見ることも大切だと思いました。

私事ですが、今回の合同シンポジウムで実行委員として活動ができたことや、司会という大役をさせて頂いたこと“ごこちない”喋りの司会だったと思いますが、とても貴重な経験になりました。

また、このような大きなイベントを行うには、計画や準備がとても大切だと思いました。是非、これからの活動に活かしていきたいです。どうもありがとうございました。



実行委員メンバー集合写真